豊田市議会議員中村たかひろ

中村 たかひろ 主な公約とその取り組み

*進捗状況:100%:実現、75%:実現に向け実行中、50%:実現に向け計画中、25%:調査中、0%:動きなし

大分類	取り組みテーマ	内容	進捗状況
安心に暮らせるまちづくり	高齢化社会への諸対策と 福祉の充実	高齢者に対する移動手段や配食 サービスの向上	75%
	自然災害対策 交通安全・防犯対策の推進	防災情報の伝達機能強化	80%
活気あふれる まちづくり	家庭・地域・学校が 一環した子供の育成	コミュニティ・スクールの推進	80%
	健全な心と健康な 体づくりの為の文化・ スポーツ活動の推進	地域部活動の充実	<u>85%</u>
	健康維持・福祉・医療 の充実	地域医療センターによる訪問 看護の充実	85%
環境にやさしい まちづくり	資源の循環・ 地域環境の保全	カーボンニュートラルに対する取組 及び意識啓発	75%
	交通環境整備と 緑化活動の調和	豊田・細川線自転車・歩道整備	<u>75%</u>
魅力あるまちづくり	ふれあいを大切にした 地域活動の推進	多世代に向けた居場所づくり の取組	65%
	子育て支援の充実	記念病院内に事業所内 保育拡大	<u>30%</u>

主な公約と取り組みの振り返りと今後の進め方

豊田市議会議員 中村たかひろ

高齢者の移動手段については、コミュニティーカー・シェアリングなど進んで来たが、配食サービスの拡大が課題であり、民間活用を積極的に進める。 熊本県や岐阜県など他県でも異常な豪雨に襲われ川の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来ていない為・引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコニニティ・スクールが設置されたが、学校規模や学校のニーズによって様々である。また、各小学校の地域学校共働本部と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8 年度から全部地域に移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の人材パンクを上手に活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、音からの課題である県道豊田・細川線の用地買収拾め自転車歩道整備を限と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくの等が引き続き必要である。 藤藪子ども国の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども国でも受入を実施。 30%	今期のテーマに対する取組み内容の振り返り	(継続 or 新規内容)テーマに対する取り組み内容	進捗状況
リングなど進んで来たが、配食サービスの拡大が課題であ り、民間活用を積極的に進める。 能木県や岐阜県など他県でも異常な豪雨に寝われ川 の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災 情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来 ていない為、引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュティ・スクール が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材パンクを上手べ活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や年宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るへきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭系社 会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々 な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や問 知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収拾め自転車歩道整備を 現と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀などされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代 に向けた居場所づくり等か引き続き必要である。 藤籔子ども図の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 図でも受入を実施。 30%		CIEDO OF ANYON JELY / CENTY ON VINTANT JE	/
り、民間活用を積極的に進める。 総統 熊本県や岐阜県など他県でも異常な豪雨に襲われ川の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来ていない為。引き続きの強化が必要。 継続 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュニティ・スクールが設置されたが、学校規模や学校のニーズによって様々である。また、各小学校の地域学校共働本部と連携を図り進める事が重要である。 継続 学校の部活動が基本的に令和 8 年度から全部地域に移行される為、今年度立ち上付た本市独自の指導者の人材パンクを上手で活用する事が重要である。 継続 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るできる。 総続 図さべきである。 国は12050 年までに、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現を目指す」にとを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を重に図る必要がある。 継続 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収拾め自転車歩道整備を県と連携しなが総続的に進める。 継続 75% 地域や学校行事などが中止を余儀なされ地域のコニュニテが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等か引き続き必要である。 継続 75% 藤敷子ども図のの~3歳児の練き、新たに平山子ども図でも受入を実施。 今年度から実施の為終了 3096 3096		継続	750/
#本県や岐阜県など他県でも異常な豪雨に襲われ川 の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災 情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来 ていない為。引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュニティ・スクール が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和 8 年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社 会の実現を目指す」ごとを宣言しました。本市として様々 な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周 知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 収と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀などされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代 に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども図の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 図でも受入を実施。 30%			/5%
の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来ていない為、引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュニティ・スクールが設置されたが、学校規模や学校のニーズによって様々である。また、各小学校の地域学校共働本部と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和 8 年度から全部地域に移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収拾的自転車歩道整備を見と連携しながら継続的に進める。地域や学校行事などか中止を余儀なされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども図の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども図でも受入を実施。 ***********************************	り、氏间活用を積極的に進める。 		
情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来 ていない為、引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミニティ・スクール が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和 8 年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材パンクを上手ぐ活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社 会の実現を目指す」にとを宣言しました。本市として様々 な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周 知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 規と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代 に向けた居場所づくり等が引き続き、必要である。 藤藪子とも園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 図でも受入を実施。 30%	熊本県や岐阜県など他県でも異常な豪雨に襲われ川	継続	80%
情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来 ていない為、引き続きの強化が必要。 豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュニティ・スクール が設置されたが、学校規模や学校のエーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和 8 年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子でも図の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 図でも受入を実施。 ***********************************	の氾濫などによる災害が多く発生している。その中で防災		
豊田市内全中学校区 28ヶ所にコミュニティ・スクール が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8 年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材パンクを上手で活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地質収拾め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤籔子でも園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 80% 85% 85% 85% 85% 75% 4継続 75% 75% 84続 75% 865% 75% 75% 9年度から実施の為終了	情報の伝達は大事であるが、中々スピーディに伝達出来		
が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって 様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社 会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々 な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周 知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュ ニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代 に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤籔子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 園でも受入を実施。	ていない為、引き続きの強化が必要。		
様々である。また、各小学校の地域学校共働本部と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の人材バンクを上手(活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 ***********************************	豊田市内全中学校区 28 ヶ所にコミュニティ・スクール	継続	80%
様々である。また、各小学校の地域学校共働本部 と連携を図り進める事が重要である。 学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に 移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の 人材パンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県之連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども図の0~3歳児の続き、新たに平山子ども図でも受入を実施。 30%	が設置されたが、学校規模や学校のニーズによって		
学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85	様々である。また、各小学校の地域学校共働本部		
移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 85% 85% 85% 85% 85% 85% 75% 75%	と連携を図り進める事が重要である。		
 人材バンクを上手く活用する事が重要である。 本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の0~3歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 30% 	学校の部活動が基本的に令和8年度から全部地域に	継続	85%
本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている 為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を 図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ごとを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の0~3歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85% 85	移行される為、今年度立ち上げた本市独自の指導者の		
為、地域医療センターによる訪問看護の更なる充実を図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 ※続	人材バンクを上手く活用する事が重要である。		
図るべきである。 国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 30%	本市でも自宅療養者や在宅看護を望む人も増えている		
国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 30%	為、地域医療センターによる訪問看護の <u>更なる</u> 充実を	継続	85%
会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の0~3歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 75% ※続 75% ※続 75% ※参 ※参 ※参 ※参 ※参	図るべきである。		
な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 ***********************************	国は「2050 年までに、カーボンニュートラル、脱炭素社	継続	750/6
な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周知を更に図る必要がある。 豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の0~3歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 本語が、おおいます。 本語が、おおいます。 本語が、おおいます。 本語が、日本のである。 本語が、日本のでは	会の実現を目指す」ことを宣言しました。本市として様々		
豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である 県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュ ニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代 に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 園でも受入を実施。 30%	な課題を踏まえ、カーボンニュートラルに対する取組や周		7 3 70
県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を 県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 園でも受入を実施。 75% 65%	知を更に図る必要がある。		
県と連携しながら継続的に進める。 地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 経続 65% 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 今年度から実施の為終了 30%	豊田・安城自転車道は完了したが、昔からの課題である		
地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュニティが薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。 65% 今年度から実施の為終了 30%	県道豊田・細川線の用地買収始め自転車歩道整備を	継続	<u>75%</u>
## 25-1が薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。	県と連携しながら継続的に進める。		
## 25-1が薄れつつある為、交流館などを活用した多世代に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども園でも受入を実施。	地域や学校行事などが中止を余儀なくされ地域のコミュ		
に向けた居場所づくり等が引き続き必要である。 藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 今年度から実施の為終了 園でも受入を実施。 30%		継続	65%
藤藪子ども園の 0~3 歳児の続き、新たに平山子ども 園でも受入を実施。			
タ年度から実施の為終了 園でも受入を実施。 30%			
保育士不兄かどに FN地域枠の受け入れまでにかってい 30%		今年度から実施の為終了	
$ KHL ^{KEGCCGOMSMTOO}$		継続	30%
ない。引き続き注視していく。			